

用宗漁港沿いの温浴施設

「用宗みなと温泉」（静岡市）

の入り口に11月、魚や船の帆

をイメージした金色のモニユ

メントがお目見えした。制作

したのはスリランカ人デザイ

ナーのディルン・アーシリ・

バンターラさん（29）だ。

ディルンさんは2月末、日

本語学校に通っていた妻のキ

トウミニ・ジャヤティラカさ

ん（27）の卒業式に出席する

予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

る予定だったが、新型コロナウイルス

のため初来日。3月末に帰国す

# 芸術の才能、仕事に生かす

スリランカ人デザイナー

ディルン・アーシリ・バンターラさん



キャラクター像の制作を依頼された。小島社長は「彼はウォールアートが得意。倉庫を専用のギャラリーにして観光客が制作している様子を見られるようにしたい」と話す。

仕事のない週末は自宅で家事などをしすことが多く、年末は「妻と京都を旅行したい」と話す。二人は仏教徒で寺院の仏像や景色に関心があるという。

静岡での落ち着いた暮らしが気に入ったディルンさんの夢は日本に10年くらい住んだ後でスリランカに戻り、「妻と一緒に古民家を再生するビジネスを始めること」だ。

「まさか自分が日本の会社で働けるとは思わなかった。コロナの影響は深刻だけど、妻と生活できてハッピー」とディルン氏。妻のキトウミニさんは「自分のために日本に来て動いてくれるディルンは私の宝物」と仲の良さを隠さない。スリランカ人のカップルが、静岡の漁港に新たな潮流を吹き始めた。

家族ビザで滞在の延長を申請したディルンさんは、みなと温泉を運営するCSAトラベル（静岡市）に就職したキトウミニさんと静岡市で生活。CSAトラベルの小島孝司社長に会った。

スリランカの大学でテレビ番組や映像制作を学んだディルンさんは、卒業後はフリランスのデザイナーとして活躍し、受賞経験もあった。興

味を抱いた小島社長は愛犬の動画を見せてモルタル像の制作を依頼。実物そっくりの作品をみて「とてもいい才能。必ず会社の戦力になる」と就職を持ちかけた。

家族ビザでは週28時間しか働けない。妻と日本で生活するため「食品の加工工場などで働こうと思っていた」というディルンさんは小島社長の要請を快諾。小島社長の後ろ盾を得て就労ビザを申請し、2日前に認められた。

小島社長が経営するCSA

不動産（静岡市）に入社したディルンさんは「空間造形作家」の肩書で活動を始めた。来年1月に用宗漁港近くで開業する商業施設で同社が運営するTシャツ店の内装向けにギリシャ神話のポセイドンなど3つの神々の胸像を制作中だ。「胸像を作るのは初めてで僕にとってチャレンジ」と語るディルンさんは釜揚げしらすの工場だった倉庫で黙々と作業に取り組んでいた。

社外からの仕事も受注した。静岡市の電気工事会社から、本社玄関に飾るためのキ

（静岡支局長 原田洋）

## 帰国できず静岡市内で就職